

やさしい病害虫講座 31

バラの病害虫-2

木村 裕

バラ栽培にとって病気対策は重要な作業で、発生前からの予防が基本ですので、発生に気づいたらすぐに防除してください。

【うどんこ病】

名前のごとくうどん粉のような白い粉が葉に付着する病気です。

被害の始まりは、開いたばかりの柔らかい葉の表面に白いカビの塊が現れることです。形は円形、方形など定まっていませんがその周りにはぼんやりとしています。やがてそこから四方に広がってゆき、葉全体が白くなります。カビが治まっても葉の上には褐色の斑紋が残ります。

目に見える被害としては、美観が非常に悪くなることです。葉の落下はあまりありませんが、新芽の伸長や新葉の展開などにも大きく影響しますので、発生に気づいたら直ちにうどんこ粉病専用の薬剤を散布してください。また、蕾も侵されて白くなることがあり、開花に影響します。



【黒星病】

葉にシミ状の黒っぽい斑紋が発生する病気で、ごく普通に発生します。

斑紋の周りはぎざぎざしており、大きさも大小いろいろです。一枚の葉に数個～十個程度発生します。どちらかと言えば新葉よりも堅くなった葉に発生します。

被害を受けた葉はポロポロと落下しますので、

美観が悪くなるばかりでなく、生育にも大きく影響します。

発生に気づいたら殺菌剤を散布しますが、1回では十分ではなく、少なくとも1週間おきに2～3回続けて散布してください。また、落下した葉は次の発生源にもなりますので集めて処分してください。



【枝枯れ病】

枝が枯れる病気です。

枝の一部が褐色になって枯れるので、その部分から先の部分は萎れて枯れます。

枝を剪定した傷口が侵入の足がかりとなりますので、枝の剪定は必ず芽のある部分で行い、枝の途中で切るとはしないように。

被害の現れた部分を残さないように枝の健全な部分で切り取って処分してください。



カビ類に対してはベンレート水和剤、うどん粉病にはトリフミンが効果的ですので、常備されることをお勧めします。